

令和3年度第4回甲賀市社会教育委員の会議 定例会議事録

日時：令和4年（2022）年3月22日（火）

15時～16時30分

場所：あいこうか市民ホール練習室3

出席者（委員） 姉川委員、山本委員、沢井委員、土田委員、坂上委員、上甲委員、井ノ口委員、岡村委員、辻委員 以上 9名

（事務局）教育委員会事務局 田村次長、杉本課長、岡崎参事、上村補佐、森地指導員 以上5名

傍聴者 なし

委員総数13名の内、9名が出席。甲賀市社会教育委員会議規則第3条2項の規定により過半数を満たし会議成立。

○市民憲章唱和

1. 開会あいさつ

委員長

- ・これまでの経過や成果とお礼のことば

2. 協議事項

(1) 地域学校協働活動にかかる経過

（事務局）

甲賀市「地域学校協働活動」にかかる経過説明

- ・「地域学校協働活動を推進するために」のテーマが設定された平成30年以降の経過について事務局から報告

（委員）

- ・「こういう事業は〇〇年度までにやりなさい」との指示はできないのか。

（事務局）

- ・令和2年度から市内小中学校が定期的に集まり、コミュニティ・スクール（以下CS）についての研修を行っている。推進する方向ははっきりしている。

（委員）

- ・学校まかせで中途半端な姿勢に見えるが、教委として指示は出せないのか。
- ・目標を先に設定して、どう進めるのか、の手順で取り組めないものか。

・推進母体はどこになるのか。提言に対して教委にがんばってもらわねばいけない。

(事務局)

・C Sの方針があって、地域学校協働活動を進めるというスタンスで進めている。
・地域の自治振興会が母体となって進めてもらいたいと考えている。また、公民館にも参画してもらいたいと考えている。

(2)地域学校協働本部の設置

(事務局)

・甲賀市地域学校協働活動推進員設置要綱は、令和4年4月1日から施行したい。

・現在、C Sは努力義務。5校分の予算化をしている。

(委員)

・公民館からの傍聴があったが、情報が公民館に入っていないのでは。
・5校が動き出し、推進員の数は1名程度となっているが、4月1日に委嘱状を出すのか。2名になっているところの根拠は。定期的に会議を開かれるのか。

(事務局)

・4校は、4月1日に出す。

・学校のほうから、2名の希望があった。予算の問題ではない。

(3)次年度の計画について

(事務局)

・別紙「令和4年度の計画について」により説明。

・審議内容として、①地域学校協働活動の推進と進捗の審議、②夢の学習事業とこれからの社会教育のあり方、③地域学校協働活動の視察及び研修、④地域学校協働本部の状況把握、⑤夢の学習事業の視察及び研修、⑥次年度以降の地域学校協働活動計画に係る審議等を示す。

(委員)

・進捗管理も大事である。

・「行動する社会教育委員」とのワードにも見られるように、学ぶから行動に移さなければならない。

・教委の諮問機関なので、教委が原則であるが、社会教育委員が自治振興会へ働きかけるなどの取り組みは考えられないのだろうか。

・次年度も同じテーマとのことだが、さらに掘り下げられるのか。前回提言の6項目の具現化が大事である。

・住民の意向を行政に反映させることが大事なことになる。

・地域住民への発信を研究対象にしてもよい。例えば、テレビによる広報活動。

・これまでも学びで終わっている。令和4年度のゴールの姿が見えるように。

どこまで、どう行動するのか。

- ・なぜ立ち上げられないのかの分析が必要。
- ・提言した内容よりももっと大切なことがあるのではないか。話し合いだけではだめで、地元の意見を吸い上げて修正を図っていくことが大事。
- ・それぞれの学区の課題を掴むことが必要。
- ・教委の理解がまちまちであることも問題である。
- ・地元の学校が9月から実施との計画を聞いたが、自分はどう動くのかが不明。
- ・地元の学校も地域学校協働活動に思いをもっておられるが進んでいない。貴生川と土山がなぜ成功したのかを分析したい。

(事務局)

- ・「行動する…」が出て、一気に流れが加速された。
- ・公民館を窓口として取り組みたい。

(4)意見交換

(委員)

- ・今後も学んだことを基にして、何らかの形で提言に関わりたい。
- ・社会教育委員の任期が揃っていないが、揃えたほうがよいのではないか。
- ・次に就任される委員さんを早く委嘱していただき、5月には、第1回の定例会が開催できるように努めてもらいたい。新しい人には、第1回でこれまでの経過を説明して歩調を合わせ、2年間は同じテーマで進めたい。
- ・現場に出かけ研修したことが思い出深い。学ぶだけでなくステップアップしたい。
- ・今の子育て世代の方で起業される方も多い。組織に入るより、自分でした方が早いとのこと。スピーディな動きをしたい。
- ・来年度どう動けばいいのか分からない。土山・貴生川を参考にしたいが地元の学校が見えていない。
- ・地域から離れる子がある中、地域から学ぶ、地域を学ぶ…を大切にしてきて、地域の課題を今、理解できたように思う。自分にできることを見つけられたような気がしている。
- ・他人まかせでなく、自ら事前研修を行い、前の話し合いに上乘せできるような議論をしていきたい。
- ・教育委員との懇談は、私としては、盛り上がっていなかったと思う。教育委員がどれだけ提言書を読み込んでおられるのかが疑問だし、基本的な構えにも問題があるように思う。
- ・各学校に提言書が必要か。社会教育委員が動いて、教育委員会をフォローする。
- ・組織だけが動いているといった心配を解消するために、土山、貴生川の子どもたちへヒアリングをして、どこがいいのか、どう思っているのかを検証すれば

どうか。

- ・社会教育委員の行動は、ボランティア活動やいろんな役職がある。
- ・来年度も本テーマを続けるなら、6項目の達成度を数値化して、どういう行動をすれば、目標により近づけるのかを議論していけばよい。

(事務局)

- ・話を聞かせていただいて感じたことは以下のとおり。
 - 行政にスピード感がないこと。
 - 振り返りの時間が不足している。
 - 成功事例の理由を明らかにする。
 - 6項目の具体化手法が問題である。
 - 委員の交代時期が問題である。
 - 活発なご意見が生かせるように、また、具体的な提案がいただきながら進めていきたい。
- ・委員の任期問題については、3月までの方には、意向をお聞きしたい。5月までの方については、意向を聞く段取りを進めたい。
- ・社会教育委員の構成については、基本的には、次回もこのメンバーでお願いしたい。

3.閉会のあいさつ

副委員長

- ・多様な意見のあることが大事である。
- ・学校に出向いて研修したことは無駄ではなかった。
- ・お礼のことば

以上